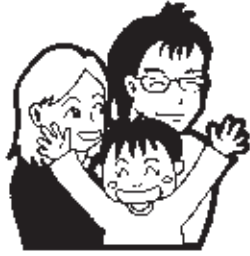


平成9年4月25日 第3種郵便物認可

2016年 新春号
第43号

民主みらい川崎市議会議員団
〒210-8577
川崎市川崎区宮本町1番地
川崎市役所第二庁舎内
http://minshu-kawasaki.jp/

The Democratic Party of Japan
民主党



民主みらい川崎市議会議員団 団長 川崎市議会議員

おだ かつひさ PRESS

〒216-0003
川崎市宮前区有馬6-6-1 五十嵐ハイツ102号
TEL & FAX: 044-856-5456
E-mail: oda@odakatsu.com
URL http://odakatsu.com/



具体的な提言
確実な実行

いよいよ鷺沼駅周辺が生まれ変わります 「鷺沼駅周辺まちづくり推進事業」が 川崎市総合計画に

「梶ヶ谷菅生線」の現地調査を行いました

12月議会に提出された次期「総合計画実施計画案」で、正式に「鷺沼駅周辺まちづくり推進事業」が位置付けられました。「鷺沼駅を中心に高齢者等の多様なライフスタイルに対応した都市機能集積および交通結節機能の強化に向けた取り組みを推進する」としています。

鷺沼駅誕生から50年の節目の年である、平成28年度から10年来の懸案がついに動き出します。

本格的な「高齢化」を見据えた街づくりを

駅周辺の土地利用、交通環境の改善については、東急電鉄と宮前市民、市役所の三者による共同作業です。この作業が円滑に進むように議員の立場から取り組みを進めてきました。

実現すれば、区役所や聖マリ医大病院直通などのバス路線の新設検討など、交通アクセスの大幅な改善が可能となります。併せて駅周辺に商業施設、医療・福祉施設、さらには市民憩いの場の整備なども期待できます。

もちろん鷺沼駅前の「人と車の混在」状態と駅周辺の慢性的な「交通渋滞」の解消は、事業上の大前提です。

宮前区の「都市計画マスタープラン」にあるように、鷺沼駅が文字通り「地域生活拠点」へと整備され、宮前平駅をはじめとして、区内全域への主要交通結節駅となることが大目標です。

東急電鉄との「包括連携協定」の締結を実現

鷺沼駅周辺の基盤再整備については、「たまプラーザ駅北側地区の整備事業」を参考に、まず川崎市も東急電鉄と「まちづくり研究会」を発足させて「官民連携の協議のテーブル」をつくること提言。その上で「東急沿線まちづくりに関する包括連携協定」の締結をめざすことを議会において提案してきました。重ねての質疑が実を結んで、平成27年6月の協定締結となりました。

協定の成果として、昨年10月から宮前平駅に「ホームドア」が設置されました。さらに本年6月をめどに、エスカレーターの設定が予定されています。

平成29年度末までに、具体的な整備内容が策定される予定

「まちづくり研究会」での協議を経て、昨年3月に策定された「土地利用ゾーニング案」では鷺沼駅周辺の街づくりの方向性として「駅を中心としたまちづくりやアクセス向上の取り組み」が確認されました。さらに、本年3月末までに策定予定の「土地利用方針(案)」では、「駅前ロータリーの拡充」と「バス路線の充実」が主要な機能として位置付けられる予定です。バスによる鷺沼駅へのアプローチの改善が最大の目的となっています。

平成30年度当初より、直ちに整備にはいるよう要望しています

平成28年度から2年をかけて、駅前広場、駅前商業施設、駅舎などを含め、再整備に向けた具体的な計画内容が検討されます。整備の手法については「市街地再開発事業」「優良建築物等整備事業」などが考えられるとしています。

再整備の対象敷地の割合から、東急電鉄に事業費の負担の多くを依存する仕組みとなることが予想されます。再整備事業にどのような付加価値をつけることができるのか、川崎市としても真剣に議論しなくてはなりません。これからも積極的に情報提供に努めてまいります。

「梶ヶ谷菅生線」が開通すれば、鷺沼駅へのアプローチが大幅改善

鷺沼駅への路線バスなどの交通アクセスの改善には、駅前広場だけの再整備では不十分です。駅へアプローチする都市計画道路の整備も欠かせません。

現在、第2次川崎市道路整備プログラムが策定中です。平成28年度から37年度までの10年間の都市計画道路の整備計画となります。この計画においても、これまでの第1次プログラムを「少子高齢化の更なる進展」による観点から見直して「駅などの交通結節点へのアクセス性の改善」を図ることが大きな目的とされています。

ところが、鷺沼駅バスアクセスに資する、都市計画道路「梶ヶ谷菅生線」の整備への評価がほとんどなされず、このままでは次期プログラムでも事業着手の見込みが大変厳しい状況です。

現行の事業見直し評価のあり方では、そもそも現在は道の通っていない犬蔵地区と鷺沼駅を結ぶ「梶ヶ谷菅生線」は、優先順位が低くなっているのです。評価指標の見直しに向けて、議会で厳しく議論しています。

なお、かねてからの懸案でした「横浜生田線」水沢工区は、平成33年度に供用開始すると時期が明示されました。この路線が開通すると、ますます「梶ヶ谷菅生線」との連携が深まり、鷺沼駅への利便性が増大するのです。

都市計画道路「梶ヶ谷菅生線」概念図



横浜市営地下鉄の延伸に向けて、向ヶ丘地区に駅の設置を検討したい

横浜市営地下鉄3号線(ブルーライン)の「あざみ野駅~新百合ヶ丘駅」までの延伸については、平成12年1月の運輸政策審議会(現・交通政策審議会)において、すでに確認されています。「すすき野」付近に新駅と例示され、新百合ヶ丘駅を結ぶ、とされました。

この3月までに交通政策審議会の新たな答申が示される予定です。現在の関心事は①地下鉄延伸事業が今回の答申の「東京圏における鉄道計画マスタープラン」において、より重みのある事業として位置づけられるのか②前回の答申では、「あざみ野~すすき野付近」までがA1、「すすき野付近から新百合ヶ丘」までがA2と評価されました。今回は両区間とも同時に「目標年次までに開業すべき」という評価であるA1路線に位置づけられるか、の2点です。

宮前区周辺における交通政策審議会の提案路線



※線は路線のイメージを示すものであり、具体的なルートを表すものではありません。

駅を宮前区内に誘致するのは理論的には可能

答申を受けて、まず事業主体である横浜市で事業化の決定がなされる必要がありますが、横浜市は「事業優先度の高い路線」との認識を示しています。

事業化決定のあと、事業主体、事業の仕組みと道路管理、事業費用負担、ルート、駅の位置の決定などについて、川崎市と横浜市との間で議論することになります。

すでに両市間で「市営地下鉄の延伸事業」と尻手駅付近の「南武線立体交差化事業」の両事業の連携協定の覚書を平成23年6月に交換していますので、議論にはスムーズに入れる見込みです。さらに、昨年8月に両市とも交通政策審議会に本事業の提案(事業化する意思表示)を終えています。

川崎市内には、新百合ヶ丘駅以外には、1カ所のみ駅整備といわれておりますが、ルートや駅位置の決定まで時間の余裕があるので、駅を宮前区内に誘致するのは理論的には可能です。

地下鉄延伸問題と連動させて、向ヶ丘地区の地域交通の将来像に関わる議論を深める絶好のチャンスと認識しています。